

2 月月例労働経済報告のポイント

一般経済

○ 景気は、持ち直しに向けた動きがみられ、足踏み状態を脱しつつある。ただし、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。

- ・ 輸出、生産は、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 企業収益は、改善している。設備投資は、持ち直している。
- ・ 企業の業況判断は、慎重さがみられる。
- ・ 雇用情勢は、依然として厳しいものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は、このところおおむね横ばいとなっている。
- ・ 物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。

○ 先行きについては、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、景気が持ち直していくことが期待される。一方、海外景気や為替レート、原油価格の動向等によっては、景気が下振れするリスクが存在する。また、デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

労働経済

○ 労働経済面をみると、雇用情勢は、依然として厳しいものの、持ち直しの動きがみられる。

- ・ 12月の完全失業率（季節調整値）は4.9%で、3ヶ月ぶりに前月差で低下（0.2ポイント低下）。
- ・ 就業者数（季節調整値）は6,252万人で、3ヶ月ぶりに前月差で増加（19万人増）。
- ・ 雇用者数（季節調整値）は5,464万人で、3ヶ月ぶりに前月差で増加（8万人増）。
- ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.57倍（前月と同水準）。
- ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、1.01倍（前月差0.06ポイント上昇）。
- ・ 現金給与総額（原数値・確報）は550,923円で、前年同月比0.1%増。